

「お茶の機能性研修会」を開催

近年の食生活の変化に伴い、リーフ茶離れが進んでおりましたが、昨年から新型コロナウイルス感染症の影響により自宅で食事をする機会が増えたことや機能性に魅力を感じてお茶の飲用機会が徐々に増えてきております。また、鹿児島県は、2019年の茶の産出額が252億円と初めて日本一となったことから、当協会アドバイザーで医師の馬淵知子先生を招聘し、「お茶の機能性成分と効果的な摂り方について」という演題で医師の立場からアドバイスいただくお茶の機能性研修会を開催し、29社・団体、43名の茶生産者や飲食店経営者等が受講しました。

【その他のお茶の効能等】

- ・抗アレルギー作用
- ・発ガン性の抑制
- ・血糖値の上昇を抑える
- ・中枢神経を興奮させ集中力を高める
- ・デトックス作用でむくみを予防
- ・テアニンによる脳（副交感神経）のリラックス効果
- ・ビタミンCが豊富で美肌効果に役立つ

その他にパッケージや商品名を工夫し、飲みたいと思える様に付加価値を高めたかどうかとのご提案もありました。受講者からは「お茶を生産するだけでなく、効能などを説明しながらPRしていきたい」「食育で子供たちに茶の素晴らしさを伝えていきたい」「食事とのペアリングを提案したい」「成分毎の活用方法を消費者に分かり易く伝えたい」などの感想をいただきました。

今後専門家の講演等を通して、本県特産品の魅力を発信して参ります。



福岡三越にて「夏の鹿児島味探訪」を開催！

【10年ぶりー福岡三越にて催事を開催】

九州の一大消費地である天神地区（福岡市）にある（株）岩田屋三越 福岡三越の地下食品催事場及びティスティパティオにおいて、本

県食文化や工芸品、観光情報等を総合的にPRする「夏の鹿児島味探訪」（8月17日（火）～8月23日（月）7日間）を初開催しました。（出展企業食品9社、工芸品2社）

会期中は、日本一の黒毛和牛や人気のさつま揚げ、郷土菓子を始め、竹製品や刃物などの販売・PRを行いました。

福岡三越での催事は、10年ぶりの開催ということもあり、当時を知る担当バイヤーからは、「鹿児島県単独の催事が再開出来て非常に良かった。地下催事となるが、今後も継続開催していきたい」とのお言葉もありません。

【コロナ禍での開催と反響】
開催期間中は、福岡県への緊急事態宣言発令や連日

の大雨の影響等により、天神地区の人通りは、非常に少ない状況でしたが、本県出身者のお客様が多く来店されて、懐かしさなどから購買に繋がるケースがありました。

また、今回初めて、地下催事で食品に関連した調理器具や刃物の販売も行ったところ、出展者からは「食品フロアでの販売経験はなかったが、食に繋がる商品のため、お客様の反応がとても良かった。次回も是非出展したい」と手応えを感じていただきました。

今後、年複数回の継続開催を行うことで、新規顧客獲得や鹿児島ファンを増やせるよう、これからも福岡県民に本県特産品の拘りを発信・PRして参ります。



【首都圏での物産展の開催】

世界自然遺産に登録された奄美群島の特産品や観光の紹介を始めたとする本県及び本県特産品のイメージアップ並びに販路拡大を目的に、東武百貨店池袋店で「大鹿児島展」(7月29日～8月3日の6日間)を夏季に初開催し、本県から68社(工芸品15社、食品53社)が出展しました。

会期中の首都圏は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により、不要不急の外出を控えるような報道や1964年以来となる東京オリンピックの開催、本県の離島や関東地方への台風直撃などの影響もありましたが、初日から大鹿児島展を楽しみにしていたお客様が多く来場されました。

【コロナウイルス感染症防止対策とコロナ禍での開催】

「コロナ禍での開催」ということもあり、来店者並びに出展者の安全を守るため、会場でのマスク着用、手洗い・うがいの徹底のほか、作業(実演)スペースの制限や飲食ブースの間隔を空けて座席配置をするなど感染防止対策を徹底し実施しました。緊急事態宣言中ではありません

たが、来場されたお客様は安心してお買い物を楽しんでおられました。

【出展者・百貨店関係者の反応等】

会期中には、東京都の新規感染者が5千人を超えるなど、連日の感染者増加と重なり心配されましたが、百貨店担当者からは「コロナ禍にもかかわらず、出展者にはとても頑張っていた」「鹿児島県は、離島など魅力的な資源が多く、ポテンシャルが高いので、首都圏の消費者にとって非常に魅力を感じるものが多い」といったお言葉をいただきました。また、出展者からも「冬とは違った比較的に若い世代の来場者が多く、新規客の確保に繋がった」「感染対策を取りながら、今後も積極的にPRしていく」などの前向きな意見が多くありました。今後もミナトコロナで事業者の皆様と一緒に、本県特産品を盛り上げていきたいと思っております。



山形屋にて「第12回くごんどん鹿児島くふるさと物産展」(8月18日～23日の6日間)を開催し、62社(工芸品14社、食品48社)が出展しました。

昨今のコロナの影響で2年ぶりの開催となりましたが、世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島」を始めとした奄美群島の魅力や、旬の人気スイーツ・テイクアウト関連商品を充実させることで、改めて県内消費者に魅力を発信いたしました。

その中でも、ふるさと物産展をお家で楽しんでもらうため、山形屋オンラインショップ内にて物産展会場で販売している商品やオンライン限定品などの販売を行いました。特に、洋菓子、黒糖、黒豚餃子、島バナナ、焼酎などお家で楽しめる商品の購入率が高く、オンラインとの連動企画は、各百貨店の物産展でも主流となりつつあるので、継続開催することで認知度向上や利用促進を図り、今後も積極的に活用していきたいと考えております。

【消費者の声】

・コロナ禍ではあったが、物産展を楽しみにしていたので来場した。
・コロナが落ち着いたら県内(離島)を旅行したい。

【山形屋担当者の声】

・二酸化炭素の濃度測定器の設置や入退場口の制限など「コロナ対策をより徹底(出展者等とも協力)することで、お客様をはじめ関係者等も安心して物産展を開催できた。
・このような状況下でも地元を応援する立場として、少しでも協力ができればと思います。

【出展者の声】

・このような時期ではあるが、販売活動は行っていく必要がある。
・次回の販売やギフト、定番化に向けた話しもいただいた。
・コロナで非常に心配したが、県や協会、百貨店と現状の認識や「コロナ対策を共有することで心配が解消され安心して出展することができた。今後の物産展もこれまでの経験を活かして出展していきたい。



2年ぶりに小学生が伝統職人のお仕事をリアル体験！

本県の伝統的工芸品の製造体験や職人との交流を通じて、理解と認識を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に「かごしまの手仕事学校」(7月30日～8月1日)をマルヤガーデンズにて開催しました。今回は、新型コロナウイルスの感染防止策として、共用道具は都度、アルコール消毒を行い、密を作らないように体験ブースを広くするなど対策を取りながら開催しました。

3日間で県内外から延べ160名が体験し、中には1日に複数の体験にチャレンジしたり、当日参加で体験する小学生がいるなど、反響が大きかったです。

今回は、川辺仏壇の螺鈿体験や陶器づくり体験のほかに、大島紬での折鶴製作を初めて行い、保護者が驚くほど真剣に取り組む姿が多数見受けられました。

今回は、こどもガーデンズが10回目を迎えることから、若い世代に興味を抱いてもらえるような新たな仕掛けや展開方法をマルヤガーデンズと模索し、伝統産業の後継者育成に繋がるような取組みを今後も進めてまいります。

【体験した小学生の声】

・ 伝統産業が好きなので、良い経験になった。勉強になった。

・ コロナで外出が出来ない中でも楽しめた。
・ 自由研究で切子を研究していたので、良い体験ができた。

【保護者の声】

・ 子供が体験しているのを見てると凄く楽しそう。親も機会があれば体験したい。
・ 大人も夢中になれる体験(イベント)だと感じた。
・ 日々の生活では知らない世界に触れて、子供の世界が広がる機会になった。

【出展者の声】

・ 低学年の小学生には少し難しい体験もあったが、親子一緒に一つ一つの物を作り上げていく姿が見られて良かった。
・ 伝統工芸品製作の面白さ、素晴らしさが少しでも伝われば有難い。



鹿児島ブランドショップ鹿児島店とアミュ広場にて「世界自然遺産登録記念イベント」を初開催！

鹿児島ブランドショップでは、「奄美・徳之島、沖縄島北部・西表島」の世界自然遺産登録を記念して、8月2日～31日まで「奄美世界自然遺産登録記念フェア」を開催し、奄美大島・徳之島を中心とした奄美群島の特産品販売・PRを行ないました。

会期中は、期間限定で奄美群島の農産物や郷土菓子、奄美黒糖焼酎、大島紬製品など41社77品目を展示・販売し、中でも、島バナナ(徳之島産)やドラゴンフルーツ、ハンダマなど南国の島ならではの農産物やミニ蘇鉄が好評でした。

来店されたお客様からは、「現地に行かないと買えないと思っていた商品を買ったことのできてうれしい」「奄美群島のフェアを毎年開催して欲しい」などの声を多くいただきました。

また、アミュ広場では、改めて県民の方々に世界自然遺産登録の周知を行うとともに、登録を更に盛り上げるため「鹿児島・奄美大島・沖縄フェスティバル」(7月16日～21日)を初開催しました。

当イベントにおいても、本

県・沖縄県の特産品販売やJALによる奄美群島に関連した機内商品の販売及び奄美群島のステイジPR・クイズ大

がりました。コロナ禍で昨年から盛大に県内イベント等も開催できない状況が続いておりましたが、今後も世界自然遺産登録等につけ、特産品振興を図って参ります。



JALのCAによる奄美群島PR (アミュ広場)



鹿児島ブランドショップで販売した奄美群島の特産品

会員紹介

地域に根差して従業員一丸となり作り上げた新食感蒲鉾 有限会社浜崎蒲鉾店 濱崎 創氏



昭和23年にいちき串木野市にてさつま揚げ・蒲鉾店として創業した『浜崎蒲鉾店』。今年で創業73年を迎え、当社の昔ながらのさつま揚げの味を守り続けているのが、代表取締役であり3代目の濱崎創氏だ。

創氏は、福岡の大学卒業後に入社し、先代から練物のイロハを一から習得するため、製造現場で勉強を重ね、繁忙期は、深夜遅くまで製造することも度々あったという。そのような練製品への探究心と従業員と共に行った商品開発、成分等の微妙な配合努力があり「サラム風蒲鉾 魚っち」という新商品が1年掛かりで完成した。この商品は、2020かごしまの新特産品コンクール「鹿児島県観光連盟会長賞」、第五十一回水産物品評会「水産庁長官賞」など数々の賞を受賞し、それを契機に年間販売数25,000本突破するヒット商品となった。今では、県内外のマスコミ等にも取り上げられ、また、アーティスト・料理人等による紹介やコロナ需要なども重なり、注文数は瞬く間に伸び、今や当社の主力商品の一つとなっている。

創氏曰く、「ここまで販売数が伸ばせたのは、従業員と一丸になって商品開発に取り組み、数々の賞を受賞できたことで販売促進に繋がったことは間違いないが、やはり地元の方々に認めていただけた証なのではないか」という想いが強い。「一つのヒット商品がその企業、従業員、地域へ貢献できる起爆剤となり得る」という信念を持つ創氏は、これからも“いちき串木野市の練製品”のなる発展の一翼を担い、今後も邁進していく。



特産振興支援員奮闘記

SDGsと工芸品の発展

特産振興支援員 工芸品担当 村瀬 辰範



SDGs(持続可能でより良い世界をめざす目標)をご存知と思います。国連サミットで採択された2030年までに達成する目標で、プラスチック製品の削減等身近なところで進んでいます。認知度全国調査では、「聞いた事がある」と答えた方が47%という結果で、年齢別では30歳未満の若年層で認知度が高いとの結果が出ています。その取組に県内の多くの事業所が取組んでいます。

さて、鹿児島県には国・県指定の伝統的工芸品は35品目がありますが、どれもが鹿児島県が重んじてきた“和の文化”の象徴です。SDGsとは無縁と思われるかもしれませんが、大量生産ではなく限られた資源を有効に使い、現在のSDGs以前から自然と環境を配慮し、技術と技能を受け継ぎさらに改良を重ねて今の工芸品があります。

コロナ禍により、それぞれの生活に変化をもたらした不安定な時代になりました。特産振興支援員として訪問させて頂いた工芸品事業者の中にも、多くの方が苦境に立たされているというお話を伺います。

そのような中でも、前向きで少しでも皆様に喜んで頂き満足して頂くため、より良いものを作り、後世に残して行きたいという意気込みを強く感じました。

モノが溢れ、捨てることになった生活を長く続けてきた時代はとうに過ぎました。良いものは子や孫の代まで長く使えるということが、伝統的工芸品が持つ本来の姿でありSDGsに即したものであります。

然しながら、知名度の低い工芸品もあり、対面消費が激減している今、同じ手法だけでは各事業者の方々の苦境は改善しません。新商品を作り出す等々、工芸品への期待値を上げ、知名度の向上を図るためにも、微力ですが支援を行なっていきます。

1. 「かごしまの暮らしを彩る器展」初開催します！

来年1月末に東京にて開催される「テーブルウェア・フェスティバル2022」への出展に向け、商品開発に取り組んでいる企業(12社)の作品を一堂に会し、鹿児島県の方々にも幅広く紹介することを目的とした「かごしまの暮らしを彩る器展」をマルヤガーデンズにて初開催いたします。

会期中は、実際に製作した職人との交流や作品の展示販売も行っておりますので、皆様是非、足をお運びください。

【会期】10月8日(金)～10月10日(日)3日間(最終日は18時まで)

【会場】マルヤガーデンズ 4階 ユナイトメントガーデン



2. 第26回 かごしま原木しいたけフェア開催告知

当協会では、本県特産品である原木しいたけの消費者への普及や啓発、消費向上を促すため、「第26回 かごしま原木しいたけフェア」を開催いたします。

当日は、乾・生しいたけや椎茸加工品、特売用乾燥しいたけの販売のほか、2,000円以上の購入者対象にしたお楽しみ抽選会を実施いたします。

(新型コロナウイルスの感染拡大防止のため乾しいたけ袋詰め放題は中止)

毎年、非常に良質な原木しいたけをお買い求めいただけるフェアですので、当協会としても、更なるPR、魅力発信を続けて参ります。



【会期】令和3年10月12日(火)～10月15日(金)4日間

※新型コロナウイルス感染症の状況により日程の変更・中止となる可能性がございます。

【会場】鹿児島県産業会館 1階ロビー

3. 「2021かごしまの新特産品コンクール」延期のお知らせ

「2021かごしまの新特産品コンクール」を全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大している状況等を鑑み、下記の日程に延期することといたしました。

御応募いただきました皆様には、大変御迷惑をおかけいたしますが、何とぞ御理解賜りますようお願い申し上げます。

【旧】10月4日(月)⇒【新】11月5日(金) ※時間帯、会場の変更はありません。

4. 「うんまか鹿児島輸出商談会2021」及び「鹿児島県産品×沖縄国際物流ハブ」海外輸出オンライン商談会開催告知

TPPやFTAなど多国間経済連携協定締結など海外進出の機会を得ていることから、今回、豊富で良質な本県産品を海外への販路開拓と更なる認知度向上を図るため、国内外のバイヤー28社と商談する「うんまか鹿児島輸出商談会2021」(10月13日(水)～19日(火)(平日のみ))及び沖縄国際物流ハブを活用した特産品の販路拡大を目指す「鹿児島県産品×沖縄国際物流ハブ」海外輸出オンライン商談会(11月16日(火))を開催いたします。

これからも県や民間企業と連携を図りながら、海外への本県特産品の販路拡大及びPRを支援して参りますので、輸出等興味のある方は、是非、当協会へご相談ください。